

Ⅷ. シラバス（博士後期課程）

○ 専門科目

広域実践看護学特論Ⅰ	141
広域実践看護学特論Ⅱ	142
広域実践看護学特論Ⅲ	144
広域実践看護学特論Ⅳ	145
広域実践看護学演習	146
広域実践看護学特別研究	147
広域実践看護学特別研究Ⅰ	150
広域実践看護学特別研究Ⅱ	153

○ 専門関連科目

地域保健医療研究論	154
異文化精神医療論	155
言語学研究論	156

授 業 科 目 名	広域実践看護学特論Ⅰ (ヘルスケアシステム・看護管理研究法)	専門科目	2 単位
科 目 責 任 者	○春山 早苗		
到 達 目 標	看護ケアやヘルスケアを効果・効率的に提供するためのヘルスケアシステム及び看護提供システムの構築・マネジメント、施策・政策化に関わる看護実践の開発に関する研究方法を探究する。		
授 業 概 要			
○担当教員名：春山早苗、成田伸			
○概要：国内外の研究を通して、ヘルスケア及び看護のシステム化とマネジメントに関する量的・質的手法などの研究方法を幅広く学修する。看護の対象である個人・家族・地域の健康課題に対し、我が国のヘルスケアシステムや各保健医療福祉施設のキャッチメント・エリアを視野に入れて、対象や看護職を取り巻くシステムの面から研究アプローチをするためのシステム構築やシステム・マネジメント、看護管理に関わる看護実践研究に用いられる理論と研究方法を教授する。			
○授業形式：講義・討議・プレゼンテーション			
第1回～第2回 システム概念、一般システム理論とヘルスケアシステム及び看護提供システム (春山・成田)			
第3回～第8回 ヘルスケアシステムのマネジメント及び構築・機能化に関わる看護実践研究 と研究方法 (春山)			
以下の項目について、国内外の研究を通じた講義・討議・学生によるプレゼンテーションを行い、ヘルスケアシステムのマネジメント及び構築・機能化に関わる研究課題の焦点や研究枠組みとして有用な理論・モデル、測定指標等の研究方法について探究する。授業を踏まえ、学生はヘルスケアシステムのマネジメント及び構築・機能化に関わる研究方法を考察しレポートする。			
・自治体の保健福祉介護事業評価と施策・政策化			
・健康増進・疾病予防・介護予防のためのヘルスケアシステムの構築・機能化			
・地域における災害・感染症等健康危機管理体制の構築と改善			
・慢性疾患をもつ療養者及び医療依存度の高い療養者の在宅ケアシステムの構築・機能化			
・へき地または都市部など地域特性に応じたヘルスケアシステムの構築・機能化			
第9回～第13回 看護提供システムのマネジメント及び構築・機能化に関わる看護実践研究 と研究方法 (成田)			
以下の項目について、国内外の研究を通じた講義・討議・学生によるプレゼンテーションを行い、看護提供システムのマネジメント及び構築・機能化に関わる研究課題の焦点や研究枠組みとして有用な理論・モデル、測定指標等の研究方法について探究する。授業を踏まえ、学生は看護提供システムのマネジメント及び構築・機能化に関わる研究方法を考察しレポートする。			
・医療機関等における看護・ケアの質管理			
・医療機関等におけるリスクマネジメント			
・母子及び家族への支援システムの構築・機能化、看護管理			
・へき地における母子ケアシステムの構築・機能化、看護管理			
第14回～第15回 ケアシステム構築やシステム・マネジメント、看護管理に関わる研究に用いられる理論と研究方法 (春山・成田)			
評 価 方 法	プレゼンテーション内容(40%)、授業概要に示した2題の課題レポート(60%)をもとに科目責任者が総合的に評価を行う。		
テ キ ス ト	指定しない。		
履修上の留意事項	ヘルスケアシステムまたは看護提供システムに関する先行研究を一つ以上読み授業に臨むこと。事後は、本科目で探究した研究方法を踏まえて、自己の研究方法を検討すること。		

授 業 科 目 名	広域実践看護学特論Ⅱ (クリニカルケア研究法)	専門科目	2 単位
科 目 責 任 者	○横山 由美		
到 達 目 標	看護現象の客観的な分析と分析結果を探究する研究方法論および方法についての批判的吟味を通し、クリニカルケアにおける新たな看護実践を創出するための研究方法を理解する。		
授 業 概 要			
○担当教員名：横山由美、小原泉			
○概要:科学的な根拠に基づく質の高い看護ケアや看護モデルの創出につながるクリニカルケア開発に関する研究方法について探究する。また、クリニカルケア研究に有用な概念枠組みや理論的基盤、さらに研究を推進するために必要な研究方法論を攻究する。加えて、研究課題に対する量的質的研究方法の拡大やその選択、看護ケアや看護モデル開発後の評価方法、ヘルスケアシステムを視野に入れつつケアシステムを見据えた実践開発研究の発展性についても理解する。			
○授業形式：講義・討議・プレゼンテーション			
第1回~第2回 （横山・小原） 看護実践におけるクリニカルケア開発の厳密性とケアシステムを見据えた看護実践研究、特にクリニカルケア開発研究における対象抽出に重要なサンプリング理論とサンプリングの方法の多様性など、対象抽出の厳密性について研究論文の批評を通して攻究する。			
第3回~第4回 （横山・小原） 概念枠組みの必要性さらに、量的研究におけるアウトカムモデルとサブストラクション、質的研究におけるサブストラクションについて、クリニカルケア研究論文の批評を通して研究方法論を攻究する。			
第5回~第6回 （横山・小原） 研究方法（量的質的研究方法の拡大やその選択）とその適切性、研究課題の明確化と研究方法の選択について、研究論文の批評を通して攻究する。			
第7回~第8回 （横山・小原） クリニカルケア開発に有用な高度な統計学的手法について、クリニカルケア研究論文の批評を通して攻究する。			
第9回~第11回 （横山・小原） クリニカルケア開発における研究変数の測定（評価）と尺度開発の研究方法について、研究論文の批評を通して攻究する。			
第12回~第13回 （横山・小原） 質的研究と量的研究のエビデンスの統合を踏まえ、 <i>Evidence Based Nursing</i> を見出す方法とその成果の活用方法について、研究論文の批評を通して攻究する。			
第14回~第15回 （横山・小原） ケアシステムを見据えたクリニカルケア開発における国内外の動向と最新の知見を踏まえ、研究方法について討議する。			
評 価 方 法	プレゼンテーション（50%）、討議内容（50%）。		

テ キ ス ト	• Ian McDowell: Measuring Health. 3nd, A Guide to Rating Scales and Questionnaires. OXFORD University Press, 2006. • Nancy Burns & Susan K. Grove: The Practice of Nursing Research Conduct, Critique, and Utilization, 5th ed. Elsevier Saunders, 2005. • 質的研究と量的研究のエビデンスの統合,ヘルスケアにおける研究・実践・政策への活用, 著: キャサリン・ポープ／ニコラス・メイズ／ジェニー・ポペイ,監訳: 伊藤景一／北 素子,2009. • 他、最新の知見が掲載された <u>First class of Clinical Journal</u>
履修上の留意事項	事前にテキストの使用する部分、最新の関連文献を熟読し、討論ができるように準備しておく。事後学習として、授業中に討議した内容から再考察する。

授 業 科 目 名	広域実践看護学特論Ⅲ (メンタルヘルスケア研究法)	専 門 科 目	2 単 位
科 目 責 任 者	○半澤 節子		
到 達 目 標	国内外における歴史や現状を踏まえて、メンタルヘルスケアに関わる看護実践の開発につながる研究課題及び仮説の設定、研究方法について理解する。		
授 業 概 要			
○担当教員名：半澤節子、永井優子			
○概要 メンタルヘルスの課題について個人、家族、社会資源を含む地域社会の支援のありようを理解し、個人と環境の相互作用という視野から研究課題を探究する。 また、メンタルヘルスケアについて、ケア提供者のありようとセルフケアを中心とした視座から研究課題を探究する。			
○授業形式：講義・討議・プレゼンテーション			
第1回～第5回（半澤） メンタルヘルスの課題を持つ人とその家族について、現状と課題を概観する。その上で、社会文化的背景についても検討し、国際的な視野からみたメンタルヘルスケアについて講義とディスカッションを展開する。			
第6回～第7回（永井） 身体疾患をあわせもつ精神障害者のケアおよび我が国のメンタルヘルス領域のケアの動向を踏まえて、講義とディスカッションを展開する。			
第8回～第15回（半澤） メンタルヘルスケアをテーマとし、院生の研究関心につながる内容のものを精読し、ディスカッションを展開する。			
評 価 方 法	プレゼンテーション内容 (50%) と討議内容 (50%) から総合的に評価を行う。		
テ キ ス ト	指定しない。 メンタルヘルスケアに関する研究課題を検討した国内外の学術誌の論文を用いる。		
履修上の留意事項	・ 事前準備(予習)としては、院生の研究課題に関連した精神的健康問題について、国内外の学術誌の論文を用いて、研究課題の設定、仮説及び研究方法の設定などについて活発な討論ができるよう準備しておくことが求められる。 ・ 事後の展開(復習)としては、本科目での学修内容を自らの研究構想の設定に役立てていくことが求められる。		

授 業 科 目 名	広域実践看護学特論Ⅳ (看護教育研究法)	専門科目	1 年次前期 2 単位
科 目 責 任 者	塚本友栄		
到 達 目 標	看護教育の現状と課題について理解し、看護行政・政策の動向を踏まえて、人材育成システムの開発と改善に関わる研究方法を理解する。		
授 業 概 要			
○担当教員名：塚本友栄、本田芳香（非常勤） ○概要：国内外の研究を通して、看護教育に関わる課題の焦点や研究枠組みとして有用な理論・モデル、測定指標等の研究方法を幅広く学修する。看護教育の現状と課題について理解を深め、看護行政・政策の動向を踏まえて、人材育成システムの開発と改善に関わる研究方法について教授する。 ○授業形式：人材育成システムに関わる国内外の研究について、学生によるプレゼンテーションを行い、課題の焦点化や研究枠組みとして有用な理論・モデル、測定指標等研究方法について討議により探求する。 第 1 回～第 4 回 国内外の先行研究を通して、人材育成システム等に関する文献抄読を行い、これらの概念整理及び課題の関連性についてレビューを行い考察する。 (塚本・本田) 第 5 回～第 8 回 上記の文献抄読を基に、研究枠組みとして有用な理論・モデル及び測定指標等の研究方法を探求する。 (塚本・本田) 第 9 回～第 12 回 看護教育及び高度看護専門職業人育成に関わる優れた教育方法や評価方法について、国内外の先行研究より先進諸外国との比較を交えて探求する。 (塚本・本田) 第 13 回～第 15 回 人材育成システムの開発と改善に関わる研究方法について多面的に探究する。 (塚本・本田)			
評 価 方 法	プレゼンテーション資料を含めた、プレゼンテーションの内容（70%）、討議への参加度とその内容（30%）から総合的に評価を行う。		
テ キ ス ト	指定しない。適宜、関連する文献を提示する。		
履修上の留意事項	・事前に、自己の研究課題と関連した人材育成上の課題について文献を用いて整理し、討論できるよう準備する。 ・事後には、授業を通して捉えた自己の研究上の課題を探求し、人材育成に関わる研究方法への理解を深める。		

授 業 科 目 名	広域実践看護学演習	専 門 科 目	2 単 位
科 目 責 任 者	○半澤 節子		
到 達 目 標	臨地での経験などから得た看護実践の課題について、関連する先行研究をレビューし批判的に吟味する（クリティーク）ことにより、研究課題を焦点化し研究計画に反映することができる。		
授 業 概 要			
○担当教員名：小原泉、横山由美、半澤節子、永井優子、春山早苗、村上礼子、成田伸、塚本友栄			
○概要：臨地での経験などから得た看護実践の課題について、関連する研究論文をクリティークし研究課題を明確にしていく方法について講義をする。ケア系のテーマ（クリニカルケア、メンタルヘルスケア）から1つ、システム系のテーマ（ヘルスケアシステム・看護管理、看護教育）から1つを選択し、担当教員2名による指導のもと、看護実践の課題との関連性を検討しながら先行研究をクリティークし、研究課題を焦点化し研究計画に反映するための方策を修得する。			
○方法：担当教員はケア系（クリニカルケア、メンタルヘルスケア）から1名、システム系（ヘルスケアシステム・看護管理、看護教育）から1名の計2名とする。			
第1回～第3回：科目ガイダンス			
第4回～第5回：研究論文のクリティーク、研究課題の明確化に関する講義（科目責任者）			
第6回～第9回：研究論文のレビュー計画の立案（担当教員）			
院生は第10回の授業までに研究論文のレビュー計画を立案し、担当教員から指導を受ける。研究論文のレビュー計画には、研究課題、臨地での経験から得た看護実践の課題と動機、キーワード、レビュー計画を明記すること。			
第10回～第25回：医学中央雑誌、CINAHL、PubMedなどでキーワード検索し、クリティーク・チェックリストを用いて研究論文を批判的に吟味する。これを踏まえて、焦点化した「研究の問い」、「研究目的」、「研究方法」などを記載しレポートにまとめる（担当教員）			
第26回～第30回：第4回合同研究セミナーにおける発表、研究課題の焦点化、研究計画の再検討			
ケア系 ：クリニカルケア（小原泉、横山由美）看護実践の課題に対し根拠に基づいた看護ケアや看護モデルの開発について検討する。 メンタルヘルスケア （半澤節子、永井優子）看護実践の課題とメンタルヘルスとを結びつけ研究課題について検討する。			
システム系 ：ヘルスケアシステム・看護管理（春山早苗、村上礼子）看護ケアの課題とヘルスケアシステムの課題とを結びつけ研究課題の方向性を見出し、システムの構築、施策化について検討する。			
看護教育 （成田伸、塚本友栄）看護の質保証の観点から人と組織を対象とした教育力開発、人材育成について検討する。			
評 価 方 法	プレゼンテーション内容（50%）と討議内容（50%）から総合的に評価を行う		
テ キ ス ト	指定しない。適宜、関連する文献を提示する		
履修上の留意事項	事前準備（予習）として、文献データベースの活用、文献収集方法について確認しておく。事後の展開（復習）として、「合同共同研究セミナー」での発表内容への教員からのコメントを踏まえ、研究計画書を見直し修正すること		

授 業 科 目 名	広域実践看護学特別研究 (平成 30(2018)年度までの入学生対象)	専門科目	6 単位
科 目 責 任 者	○春山 早苗		
到 達 目 標	ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で、科学的な根拠に基づく看護ケアの開発やその看護ケアを効果・効率的に提供するためのケアシステム、ならびに施策・政策化に寄与する研究課題を設定し、研究計画を立案し、研究活動を展開、博士論文を作成する。		
授 業 概 要			
○研究指導教員：春山早苗*、小原泉*、永井優子*、成田伸*、半澤節子*、村上礼子*、横山由美*、上野まり、大塚公一郎、里光やよい、塚本友栄、浜端賢次 *主研究指導教員になり得る教員			
○研究指導補助教員：角川志穂、長谷川直人、関山友子			
○概要			
1 年次から 3 年次にかけて主研究指導教員と副研究指導教員による個別指導、ならびに博士前期課程・後期課程合同研究セミナー（年 4 回定期的に開催）における看護学研究科の教員による指導を受けながら研究を進める。自らの実践経験と直面してきた看護実践の課題に基づく研究テーマに関する看護学および関連分野の国内外の先行研究の知見を踏まえ、独創性の高い研究課題を設定し、研究方法の検討を行う。研究計画書の作成、「看護学研究計画審査会」の審査、本学「倫理審査委員会」の審査を経て、研究活動を展開する。研究活動によって得られた成果から、副論文 1 編以上の作成を経て、博士論文を完成させ、学位論文審査委員会の審査を受ける。			
[1 年次]			
研究指導教員の指導の下、博士論文作成に向けた 3 年間のコースワークの設定を行う。			
主研究指導教員と副研究指導教員から研究課題の焦点化と研究計画について指導を受ける。自らの研究テーマに関する国内外の先行研究の検討と先行する知見の整理により、研究課題を焦点化する。そして、研究課題を科学的に探究するにふさわしい研究方法を検討する。			
後期は、研究計画書を作成し、「看護学研究計画審査会」、ならびに、本学「倫理審査委員会」の審査を受ける。「看護学研究計画審査会」と「倫理審査委員会」、各々の審査結果に応じた研究計画の見直しと研究計画書の修正をする。			
[2 年次]			
前期は、主研究指導教員と副研究指導教員による指導を受けながら、看護学研究計画審査に合格し、本学「倫理審査委員会」において承認された研究計画書に基づいて、研究活動を展開する。			
後期も同様に研究活動を継続する。また、主研究指導教員と副研究指導教員による指導の下、研究活動によって得られた成果から副論文を作成する。			
[3 年次]			
主研究指導教員と副研究指導教員の指導を受けながら、1 年を通じて博士論文を完成させる。			

(1 春山早苗：システム系)

ケアシステムや健康危機管理体制など地域を基盤としたヘルスケアシステムの構築・機能化に関わる看護実践、特に行政分野に所属する看護職の看護実践や、へき地と都市部など地域特性に応じた看護実践を探究する。

(2 小原泉：ケア系)

がん診断から終末期ケアに至るまで、特にがん患者の抗がん剤治療における臨床試験に関する意思決定モデルを中心に、がん患者とその家族に対する看護実践の開発を探究する。

(3 永井優子：ケア系)

精神的な問題を持つ人および精神障害者とその家族のセルフケアを促進し、地域生活を継続するとともに、より質の高い生活となるような看護実践を探究する。

(4 成田伸：システム系)

ヘルスケアシステムを見据えながら、リプロダクティブヘルス／ライツの概念を反映させ、さらにジェンダーの視点を取り入れ、母性看護学・助産学の特性と役割に関する看護実践の開発を探究する。

(5 半澤節子：ケア系)

国内外の科学的知見を踏まえながら我が国の精神保健に関連するテーマを探求し、精神障害の予防、治療、リハビリテーションに役立つ基礎的研究を行う。スティグマ、精神障害者家族介護、社会復帰など社会文化的環境要因について探究する。

(6 村上礼子：システム系)

慢性疾患の急性増悪も含めた重篤な状態や急性期などの看護実践から、在宅、回復期にある患者・家族への看護実践で必要な看護師の特定行為を含む看護技術の開発ならびに、看護技術教育の開発を探究する。

(7 横山由美：ケア系)

我が国のヘルスケアシステムや対象の居住する地域資源の状況も視野に入れ、健康を障害された子どもとその家族に対する看護実践の開発を探究する。

(8 上野まり：システム系)

地域特性を把握し、個々人の生活の充実を目的とした地域包括ケアシステムの構築にかかわる看護実践および看護職に求められる看護実践力を探究する。

(9 大塚公一郎：ケア系)

精神医療・医学の観点から、我が国のヘルスケアシステムの現状における在日外国人が抱える健康生活上の課題とそのためヘルスケアの開発を、異文化適応やストレス対応などの観点を含めて、探究する。

(10 里光やよい：システム系)

看護師の特定行為を含む看護技術の安全・確実な提供体制および教育に関すること、ならびに管理的・指導的看護職を含む人材育成について探究する。

(11 塚本友栄：システム系)

退院支援システムなど地域を視野に入れた支援システムの構築・機能化に関わる看護実践について、人材育成システムの観点も含めて、探究する。

(12 浜端賢次：システム系)

次世代のヘルスケアシステムをめざし、医介連携や多職種連携による地域医療やケアの充実を視野に入れ、健康障害をもつ高齢者とその家族を中心に、医療機関や高齢者施設等における老年看護管理学の看護実践を探究する。

(13 角川志穂)

妊娠・出産・育児期における母子およびその家族が抱える健康問題に対して、現代社会における家族の特性を踏まえた教育プログラムの開発や、世代や地域特性に応じた母子とその家族への看護実践の開発について探究する。

(14 長谷川直人)

慢性病をもちながら生活する成人への患者教育に関わる看護実践や診療看護技術の開発、ならびに理論構築や研究手法について、今後の社会情勢や地域特性を踏まえて探究する。

(15 関山友子)

量的研究手法について指導する。

評 価 方 法	研究計画立案及び研究計画書執筆能力、研究活動展開能力、論文執筆能力、成果発表能力、研究活動全体の統括能力など、多岐にわたる実践的な研究活動能力を評価（60%）するとともに、それら研究活動が看護学の発展につながる一連の教育研究活動と関連させながら発展させていく能力について評価（40%）を行う。
テ キ ス ト	特に指定しない
履修上の留意事項	自己の研究テーマについて、これまでに取り組んできた研究の成果を整理し、広域実践看護学分野において、何をどのように発展させたいのかを考えて臨むこと。

授 業 科 目 名	広域実践看護学特別研究Ⅰ (令和元(2019)年度以降の入学生対象)	専門科目	3 単位
科 目 責 任 者	○春山 早苗		
到 達 目 標	ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で、科学的な根拠に基づく看護ケアの開発やその看護ケアを効果・効率的に提供するためのケアシステム、ならびに施策・政策化に寄与する研究課題を設定し、研究計画を立案する。		
授 業 概 要			
○研究指導教員：春山早苗*、小原泉*、永井優子*、成田伸*、半澤節子*、村上礼子*、横山由美*、上野まり、大塚公一郎、里光やよい、塚本友栄、浜端賢次 *主研究指導教員になり得る教員			
○研究指導補助教員：角川志穂、長谷川直人、関山友子			
○概要			
主研究指導教員と副研究指導教員による個別指導、ならびに博士前期課程・後期課程合同研究セミナー（年4回定期的に開催）における看護学研究科の教員による指導を受けながら研究を進める。自らの実践経験と直面してきた看護実践の課題に基づく研究テーマに関する看護学および関連分野の国内外の先行研究の知見を踏まえ、独創性の高い研究課題を設定し、研究方法の検討を行う。研究計画書を作成し、「看護学研究計画審査会」の審査を受ける。			
1 年次前期に、主研究指導教員の指導の下、博士論文作成に向けた3年間のコースワークの設定を行う。主研究指導教員から研究課題の焦点化と研究計画について指導を受ける。自らの研究テーマに関する国内外の先行研究の検討と先行する知見の整理により、研究課題を焦点化する。			
後期からは、主研究指導教員と副研究指導教員から指導を受ける。そして、研究課題を科学的に探究するにふさわしい研究方法を検討する。研究計画書を作成し、「看護学研究計画審査会」の審査を受ける。「看護学研究計画審査会」の審査結果に応じた研究計画の見直しと研究計画書の修正をする。			

(1 春山早苗：システム系)

ケアシステムや健康危機管理体制など地域を基盤としたヘルスケアシステムの構築・機能化に関わる看護実践、特に行政分野に所属する看護職の看護実践や、へき地と都市部など地域特性に応じた看護実践を探究する。

(2 小原泉：ケア系)

がん診断から終末期ケアに至るまで、特にがん患者の抗がん剤治療における臨床試験に関する意思決定モデルを中心に、がん患者とその家族に対する看護実践の開発を探究する。

(3 永井優子：ケア系)

精神的な問題を持つ人および精神障害者とその家族のセルフケアを促進し、地域生活を継続するとともに、より質の高い生活となるような看護実践を探究する。

(4 成田伸：システム系)

ヘルスケアシステムを見据えながら、リプロダクティブヘルス／ライツの概念を反映させ、さらにジェンダーの視点を取り入れ、母性看護学・助産学の特性と役割に関する看護実践の開発を探究する。

(5 半澤節子：ケア系)

国内外の科学的知見を踏まえながら我が国の精神保健に関連するテーマを探求し、精神障害の予防、治療、リハビリテーションに役立つ基礎的研究を行う。スティグマ、精神障害者家族介護、社会復帰など社会文化的環境要因について探究する。

(6 村上礼子：システム系)

慢性疾患の急性増悪も含めた重篤な状態や急性期などの看護実践から、在宅、回復期にある患者・家族への看護実践で必要な看護師の特定行為を含む看護技術の開発ならびに、看護技術教育の開発を探究する。

(7 横山由美：ケア系)

我が国のヘルスケアシステムや対象の居住する地域資源の状況も視野に入れ、健康を障害された子どもとその家族に対する看護実践の開発を探究する。

(8 上野まり：システム系)

地域特性を把握し、個々人の生活の充実を目的とした地域包括ケアシステムの構築にかかわる看護実践および看護職に求められる看護実践力を探究する。

(9 大塚公一郎：ケア系)

精神医療・医学の観点から、我が国のヘルスケアシステムの現状における在日外国人が抱える健康生活上の課題とそのためヘルスケアの開発を、異文化適応やストレス対応などの観点を含めて、探究する。

(10 里光やよい：システム系)

看護師の特定行為を含む看護技術の安全・確実な提供体制および教育に関すること、ならびに管理的・指導的看護職を含む人材育成について探究する。

(11 塚本友栄：システム系)

退院支援システムなど地域を視野に入れた支援システムの構築・機能化に関わる看護実践について、人材育成システムの観点も含めて、探究する。

(12 浜端賢次：システム系)

次世代のヘルスケアシステムをめざし、医介連携や多職種連携による地域医療やケアの充実を視野に入れ、健康障害をもつ高齢者とその家族を中心に、医療機関や高齢者施設等における老年看護管理学の看護実践を探究する。

(13 角川志穂)

妊娠・出産・育児期における母子およびその家族が抱える健康問題に対して、現代社会における家族の特性を踏まえた教育プログラムの開発や、世代や地域特性に応じた母子とその家族への看護実践の開発について探究する。

(14 長谷川直人)

慢性病をもちながら生活する成人への患者教育に関わる看護実践や診療看護技術の開発、ならびに理論構築や研究手法について、今後の社会情勢や地域特性を踏まえて探究する。

(15 関山友子)

量的研究手法について指導する。

評 価 方 法	「看護学研究計画審査会」の承認を単位取得の条件とする。 立案した研究計画について、学位論文審査基準である「研究テーマの目的の明確性および広域実践看護学分野の目的との適合性」「研究の独創性・革新性」「実践的意義、社会的意義」「研究方法の妥当性」「引用文献の適切性」の観点から評価する (50%)。 また、研究計画の立案を、他の授業科目の学修、合同研究セミナーおよび主研究指導教員・副研究指導教員による指導により、精錬させていく能力について評価する (50%)。
テ キ ス ト	特に指定しない
履修上の留意事項	自己の研究テーマについて、これまでに取り組んできた研究の成果を整理し、広域実践看護学分野において、何をどのように発展させたいのかを考えて臨むこと。

授 業 科 目 名	広域実践看護学特別研究Ⅱ (令和元(2019)年度以降の入学生対象)	専門科目	3 単位
科 目 責 任 者	○春山 早苗		
到 達 目 標	「看護学研究計画審査会」で承認された研究計画に基づき、ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で、科学的な根拠に基づく看護ケアの開発やその看護ケアを効果・効率的に提供するためのケアシステム、ならびに施策・政策化に寄与する研究活動を展開、博士論文を作成する。		
授 業 概 要			
○研究指導教員：春山早苗*、小原泉*、永井優子*、成田伸*、半澤節子*、村上礼子*、横山由美*、上野まり、大塚公一郎、里光やよい、塚本友栄、浜端賢次 *主研究指導教員になり得る教員			
○研究指導補助教員：角川志穂、長谷川直人、関山友子			
○概要 主研究指導教員と副研究指導教員による個別指導、ならびに博士前期課程・後期課程合同研究セミナー（年4回定期的に開催）における看護学研究科の教員による指導を受けながら研究を進める。「看護学研究計画審査会」で承認された研究計画に基づき研究活動を展開する。研究活動によって得られた成果から、副論文1編以上の作成を経て、博士論文を完成させ、学位論文審査委員会の審査を受ける。 2 年次前期・後期に主研究指導教員と副研究指導教員による指導を受けながら、「看護学研究計画審査会」において承認された研究計画書に基づいて、研究活動を展開する。 また、主研究指導教員と副研究指導教員による指導の下、研究活動によって得られた成果から副論文を作成する。 なお、研究計画は、本学「倫理審査委員会」の審査を受け、承認されたものとする。 3 年次は主研究指導教員と副研究指導教員の指導を受けながら、1 年を通じて博士論文を完成させる。 各研究指導教員および研究指導補助教員の研究指導内容は、広域実践看護学特別研究Ⅰと同様である。			
評 価 方 法	「学位論文審査委員会」の承認を単位取得の条件とする。 作成した博士論文について、学位論文審査基準である「研究テーマの目的の明確性および広域実践看護学分野の目的との適合性」「研究の独創性・革新性」「実践的意義、社会的意義」「研究方法の妥当性」「引用文献の適切性」「論文の体系、論旨の一貫性」の観点から評価する（50%）。 また、主研究指導教員と副研究指導教員による指導の下、研究活動を一連の学修活動と関連させながら発展させていく能力について評価する（50%）。		
テ キ ス ト	特に指定しない		
履修上の留意事項	主体的に研究活動に臨むこと。		

授 業 科 目 名	地域保健医療研究論	専門科目	1 年次後期 2 単位
科 目 責 任 者	○春山 早苗		
到 達 目 標	地域保健医療の将来像を踏まえ、医学、情報学等の他の学問分野における課題を見出し、人々を取り巻く地域保健医療システムに関する研究方法や最新の知見を学修する。		
授 業 概 要			
○担当教員名：春山早苗、北田志郎・小池創一・吉新通康・山田隆司・折茂賢一郎（非常勤）			
○概要：国内・国外の学術誌に掲載されている、地域保健医療の最新の知見や研究方法を探究するとともに、その探究を通じて、広い視野と深い洞察、保健医療情報に関する総合的な判断能力を涵養する。また、看護の新たな概念・知識体系を構築するために、多角的視野、学際的視野で看護実践を見直したり、保健医療情報に関する課題を見出したりする能力を育成する。さらに、学際的な視野に立った研究計画を立案するための知識や理論を修得する。			
○授業形式：講義・討議・プレゼンテーション			
第 1 回 「地域保健医療研究方法論」序論（北田）			
第 2 回 地域保健医療における現状の課題（1）地域保健医療概論（吉新・山田・折茂）			
第 3 回 地域保健医療における現状の課題（2）地域での研究等（吉新・山田・折茂）			
第 4 回 地域保健医療における現状の課題（3）地域での看護介護（吉新・山田・折茂）			
第 5 回 地域保健医療の現場に密着した調査研究の概観（1）NPの現状（吉新・山田・折茂）			
第 6 回 地域保健医療の現場に密着した調査研究の概観（2）地域医療におけるNPの活用（吉新・山田・折茂）			
第 7 回 地域保健医療の現場に密着した調査研究の概観（3）地域医療におけるNPの今後（吉新・山田・折茂）			
第 8 回 地域保健医療のパラダイム（1）（吉新・山田・折茂）			
第 9 回 地域保健医療のパラダイム（2）（吉新・山田・折茂）			
第10回 データを用いた地域保健医療研究の実際（1）（小池）			
第11回 データを用いた地域保健医療研究の実際（2）（小池）			
第12回 地域保健医療研究の研究方法論の探究（1）（北田）			
第13回 地域保健医療研究の研究方法論の探究（2）（北田）			
第14回 地域保健医療研究の研究方法論の探究（3）（春山）			
第15回 地域保健医療研究における今後の課題（春山）			
評 価 方 法	授業への参加態度（約 15%）、プレゼンテーションの内容（約 35%）や討議の内容（約 50%）を総合して評価する。		
テ キ ス ト	指定しない。		
履修上の留意事項	事前準備としては、地域保健医療における課題を自らの経験に照らして考えておくこと。事後は、授業内容を振り返り、自らの研究に何を活かせるかを考えてみること。		

授 業 科 目 名	異文化精神医療論	専門科目	1 年次後期 2 単位
科 目 責 任 者	○大塚 公一郎		
到 達 目 標	異文化精神医療に関する研究構想に繋げるための基本的知識を修得する。精神医学的視点からみた異文化メンタルヘルス研究について学ぶ。さらに、当該研究に役立つ人文・社会科学などの隣接科学における最近の異文化研究の知見や異文化コミュニケーションにおける言語の役割についても学修する。		
授 業 概 要			
○担当教員名：大塚公一郎、鹿野浩子			
○概要			
医療、福祉分野における異文化精神医療研究についての概観のみならず、それと関連する人文・社会科学、自然科学領域における異文化研究の最新の知見を広く展望する。学生各自の研究に役立つような、医療、福祉領域の研究・調査における異文化の問題の扱い方についても具体的に学習する。さらに、外国語によるインタビューや通訳をととしての研究・調査法の実際についても伝授する。言語・文化が異なれば、それを話す人のことばにも違いがあることを諸外国の言語と日本語を比較して学習する。			
第 1 回	異文化となにか？ 現代の諸科学における文化概念の変容（大塚）		
第 2 回～第 3 回	隣接領域での異文化研究の展望Ⅰ（人文・社会科学領域）（大塚）		
第 4 回	文化人類学・社会学における最近の動き clinical ethnography について 隣接領域での異文化研究の展望Ⅱ（自然科学領域）（大塚）		
第 5 回	Cultural neuroscience について 異文化研究における言語の問題圏（大塚） 異文化間の参与観察、カウンセリングにおける「転移」「翻訳」について		
第 6 回～第 8 回	医療、福祉領域の異文化研究の展望（大塚） ①外国人診療、ケア、支援から問題意識をつかむこと ②先行研究の把握、文献渉猟、研究情報の収集法 ③異文化メンバーである研究協力者、共同研究者とのコミュニケーション、通訳、仲介者の問題 ④研究・調査計画の立案と実施		
第 9 回～11 回	言語社会的アプローチ： 言葉の諸相（鹿野） バイリンガル・男女の会話のスタイル・社会方言と地域方言を体系的に説明		
第 12 回～13 回	言語文化人類学とはなにか？（鹿野） ことばが空間を切る（左右・東西）・ことばが身体を切る（果物にへそ？ズボンを「着る？」）		
第 14 回～15 回	西洋人と東洋人の思考の違いを言語心理・認知言語学的に説明（鹿野）		
評 価 方 法	授業におけるプレゼンテーションまたはレポート（90%各回 6%）学習態度 10%		
テ キ ス ト	指定しない。必要な文献等については随時提示する。		
履修上の留意事項	異文化研究への学際的、実践的アプローチに関心のある学生に特に勧めます。各回の分担教員より、随時、事前準備（予習）の課題が出されるので、テキストを一読し、不明確な点を明確化した上で授業を受けること。事後の展開（復習）の課題についても、各回の分担教員の指示に従って行い、該当する授業の理解を確実なものとする。		

授 業 科 目 名	言語学研究論	共通科目	1 単位
科 目 責 任 者	大塚公一郎		
到 達 目 標	言語学的研究の最新の知見から、英語母語話者がどの様に物事を捉え、文章で表現しているのかについて学ぶ。また、意味論、日英語対照研究、比較文化研究について学修する。		
授 業 概 要			
○担当教員名：鹿野 浩子 ○概要：文章を書くことは、発信者の意図を的確に読み手に伝えなければならない。言語学的研究の最新の知見から、日本人英語学習者の母語である日本語の文章の干渉を明らかにし、英語での文章が日本語とはどのように異なっているのかを学んでいく。また、意味論、日英語対照研究、比較文化研究について概観するとともに、文章がどのような構成をとっていれば英語独特のロジカルなデリバリーのかたとなるのかを理解し、自身の研究を英語で書き・発信するための知識やスキルを修得する。			
授業内容			
第 1 回	日本語発想から英語の文章の書き方へ		(鹿野)
第 2 回	先に結論を書く、理由は重要な順番で記載（直線的な論理構成）		(鹿野)
第 3 回	採択された日本語の抄録を英語に直訳して大丈夫？(文章の脈絡・語彙選択・時制)		(鹿野)
第 4 回	抄録で十分に研究内容が伝えられているか		(鹿野)
第 5 回	因果関係・比較対照・列挙の提示方法（and と but を使いこなす）		(鹿野)
第 6 回	人称代名詞と無生物主語の記述方法（誰の意見？引用の仕方）		(鹿野)
第 7 回	plagiarism (盗作・剽窃)・推敲（ピアレビュー）		(鹿野)
第 8 回	summarize (要約) から paragraphs に論理を展開させる		(鹿野)
評 価 方 法	レポートの提出物（40%）、発表（40%）、授業中の参加度（20%）		
テ キ ス ト	指定しない 授業の中で適宜提示する		
履修上の留意事項	講義と院生のワークを中心に授業を進める。事前準備の課題を行い、授業が始まる前までに提出すること。また講義後に講義の内容に則したライティング課題を出します。課題に対する提出方法や評価は個々に面談や e メールなどのやり取りで行う。		